

通し番号	4 1 9 5
------	---------

分類番号	17-54-22-12
------	-------------

(成果情報名) 耕作放棄地向けの草地造成方法

[要約] 耕作放棄地の放牧利用のため、省力的な草地の造成法として、荒廃地におけるセンチピートグラスの不耕起造成方法について検討した。

放牧は、4月24日から10月21日までの間に113日間実施した。造成2年目の秋に実施した植生調査の結果では、センチピートグラスの被度は11%、積算優先度(SDR2)は3位でメヒシバ、ヨモギに次いでセンチピートグラスが草地内で優先しており、センチピートグラスの被度は増加していた。定着したセンチピートグラスは密に広がり、今後放牧による管理を継続することでセンチピートグラス草地の造成が可能であると考えられた。

(実施機関・部名) 神奈川県畜産技術センター 畜産工学部 連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

自給飼料生産拡大の一環として、都市近郊における耕作放棄地の有効利用が重要となっている。そこで、耕作放棄地の放牧利用のため、省力的な草地の造成法として、荒廃地におけるセンチピートグラスの不耕起造成方法について検討した。

[成果の内容・特徴]

- 1 放牧は、平成16年度は84日間、平成17年度は113日間行った。放牧強度は、それぞれ、41.9CD/10a及び132.3CD/10aであった(表1)。
- 2 造成2年目の秋(平成17年9月)の植生調査では、センチピートグラスの草地内での積算優先度(SDR2)はメヒシバ、ヨモギに次いで3位であった(表2)。
- 3 センチピートグラスの被度は、年々増加し造成2年目の秋には11%となった(図1)。
- 4 定着したセンチピートグラスは、ほふく茎により密に広がっていた(図2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 センチピートグラスの播種は、平成16年6月に行い、平成16年8月及び平成17年5月に追播した。
- 2 草地の管理ため、補助飼料を給与し放牧日数を延長した。
- 3 成果は、耕作放棄地における省力的な草地造成方法として利用できる。

[具体的データ]

表 1 放牧実績

年度	放牧期間	放牧日数	延べ放牧頭数 (頭)		放牧強度 (CD/10a)
			成牛	育成牛	
H16	5/26 ~ 10/8	84 日間	165		41.9
H17	4/24 ~ 10/21	113 日間	110	136	132.3

表 2 植生調査結果

調査年月	H16.10	H17.06	H17.09
SDR ₂ 1位 (被度%)	フェストロリウム (8.5)	ギシギシ (11.2)	メヒシバ (27.0)
SDR ₂ 2位 (被度%)	メヒシバ (5.4)	キハマスゲ (12.5)	ヨモギ (0.5)
センチピートグラスSDR ₂ 順位	6	8	3
植被度 (%)	27.7	54	64
群落高 (cm)	12	24	12.5
出現種数	24	20	14

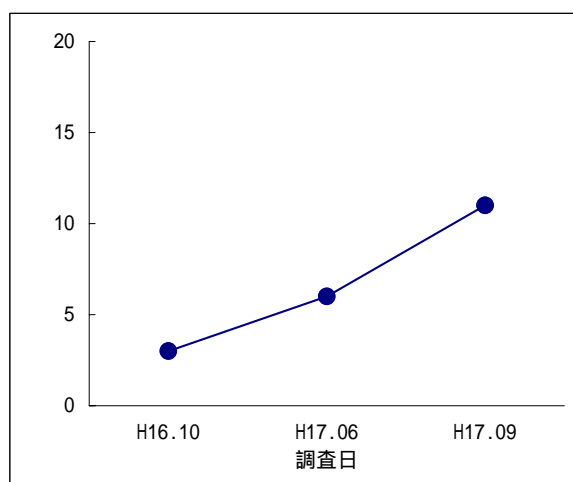


図 1 センチピートグラスの被度の推移

図 2 定着したセンチピートグラス

- [資料名] 平成 17 年度試験研究成績書 (繁殖工学・乳牛・肉牛・飼料作物)
- [研究課題名] 耕作放棄地での省力栽培に適した飼料作物栽培体系の確立
- [研究期間] 平成 13 ~ 18 年度
- [研究者担当名] 折原健太郎・秋山 清・水宅清二